

エネルギー政策の選択と市民参加

【セミナー】

原発も温暖化もない未来を創る

主催：エネルギーシナリオ市民評価パネル
(於：環境パートナーシッププラザ)

寺西俊一(一橋大学)

2012年8月29日(水)

原発推進の莫大なツケ

A.v.Kneese (1974) : 「ファウスト的取引」

『公害研究』第4巻第2号 (岩波書店)

> 「不滅の放射性廃棄物」

> 「永遠の危険性」という負の遺産

> 莫大な「社会的費用」 (Social Costs) の発生

= 「考慮されざる費用」 (Unaccounted Costs) (K.W.Kapp)

の顕在化

*** 厳しく問われる責任と費用負担**

福島第一原発事故の責任究明

1. 事故以前の対応と責任
2. 事故以降の対応と責任

> 二重の責任の徹底的究明
&
完全情報公開の重要性

2つの「神話」の虚構と破綻

*「原発安全神話」の虚構と破綻

(参考) 小出裕章著『原発のウソ』

(扶桑社新書、2011年6月1日刊)

*「原発安価神話」の虚構と破綻

(参考) 大島堅一著『再生可能エネルギーの政治経済学』

(東洋経済新報社、2010年3月11日刊)

同著『原発のコスト』

(岩波新書、2011年12月20日刊)

原発再稼働をめぐる問題

＜野田首相の「政治判断」の根拠とその是非＞

- ①暫定的安全基準の審査に合格
- ②夏場の厳しい電力需給への対応
- ③燃料費増に伴う電力料金の高騰

＞背後にある電力各社の経営破たん問題

エネルギー政策の見直しと転換

「原発推進」論 v.s 「原発反対」論

＞錯綜する「原発」見直し論のなかで

「反原発」論、「脱原発」論、

「縮原発」論、「減原発」論、

「卒原発」論 etc.

＞原発 & 自然再生可能エネルギーをめぐる
リアリティにもとづく国民的選択の重要性

新しいエネルギー政策 をどう選択するか

政府(エネルギー・環境会議)による 3つの「選択肢」の問題点

- ＞2030年での原発比率の「選択肢」のみを提示
- ＞2030年までの移行経路や2030年以降を含む社会ビジョンに関する政策選択の提示なし

これからのエネルギー・システム が満たすべき5つの要件

- ①安全性の要件
- ②安定性の要件
- ③効率性(経済性)の要件
- ④公平性(倫理性)の要件
- ⑤持続可能性(環境性)の要件

＞エネルギー・インフラの再編・整備が不可欠

原発から自然再生可能エネルギー への転換をどう考えるか —ポテンシャルとリアリティー—

ポテンシャルをリアリティーに
つなげる説得的な
シナリオ & 政策論の重要性

これからの政策選択と市民参加

＞政策的な意思決定プロセスへの
形式的な市民参加を超えて、

＞実質的な市民参加をどう実現して
いくか